

製品名: C/EBP ϵ ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07709**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	34kDa

抗原情報

遺伝子名	CEBPE
別名	CEBPE; CCAAT/enhancer-binding protein epsilon; C/EBP epsilon
遺伝子 ID	1053.0
SwissProt ID	Q15744
免疫原	抗血清はヒト C/EBP- ϵ 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 40-89

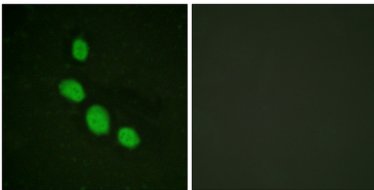
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は bZIP 転写因子であり、特定の DNA 調節領域にホモ二量体として結合することができます。また、関連タンパク質である CEBP-delta とヘテロ二量体を形成することもできます。コードされるタンパク質は、分化誘導さ

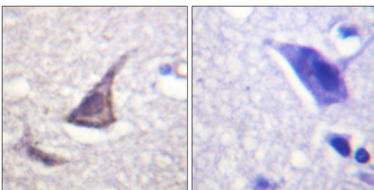
れた顆粒球前駆細胞の最終分化および機能的成熟に必須であると考えられます。この遺伝子の変異は、まれな先天性疾患である特異的顆粒欠損症と関連付けられています。この遺伝子には複数のバリエーションが記載されていますが、全長が決定されているのは1つだけです。[RefSeq 提供、2008年7月]機能: C/EBPは、多くのプロモーターに共通するCCAAT相同性と、多くのエンハンサーに共通するエンハンサーコア相同性の2つの異なるモチーフを認識するDNA結合タンパク質です。、オンライン情報: CEBPE変異データベース、PTM: リン酸化されています。、類似性: bZIPファミリーに属します。 C/EBPサブファミリー。、類似性:1つのbZIPドメインを含む。、サブユニット:DNAに二量体として結合し、C/EBPデルタと安定したヘテロ二量体を形成できる。、組織特異性:前骨髄球および後期骨髄芽球様細胞株で最も強い発現がみられる。、

研究分野

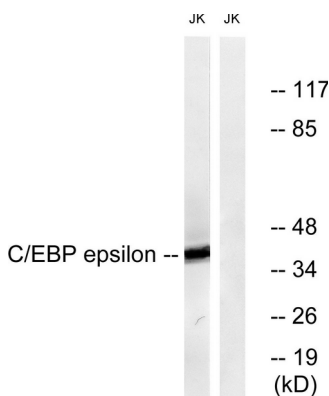
画像データ



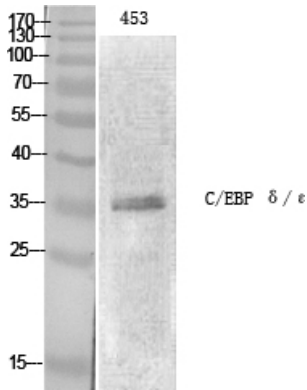
C/EBP-ε抗体を用いたHeLa細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした画像です。



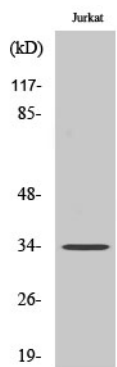
C/EBP-ε抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



インスリン 0.01U/ml を 15 分間処理した JurKat 細胞のライセートを C/EBP-ε 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロックした。



C/EBP ϵ ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウェスタンブロット分析。



C/EBP ϵ ポリクローナル抗体を使用した Jurkat 細胞のウェスタン ブロット分析。